

UCSDより (1) 登録・定住編

University of California, San Diego 栗木 一郎

93年の9月から、カリフォルニア大学サンディエゴ校 (University of California, San Diego; 以下UCSD) の心理学科 (Dept. of Psychology) にある Vision Laboratory の Donald MacLeod (ドナルド・マクラウド) 教授の指導の下で、1年ほど大学院留学生として研究をすることになりました。出発に先だって留学先の選定をはじめ、色々と御尽力いただいた指導教官の内川先生から、私の留学中にVISIONが4回刊行されるから同時進行の手記を書きなさいとのお言葉がありました。今回は締め切りが渡米してすぐだったので、定住が完了するまでの経過を記したいと思います。

カリフォルニア大学は州立大学で Berkeley, Davis, Irvine, Los Angeles, Riverside, San Francisco, Santa Barbara, San Diego の9つのキャンパスがあります。各キャンパスが特色のある学問分野をもっており、UCSDは知覚・認知科学や神経科学がさかんで、Vision Lab.にはお馴染みの Anstis, MacLeod, Ramachandran がいます。San Diego はロスアンゼルス南約200kmに位置するアメリカ最大の軍港のある都市です。UCSDは市の北部の西海岸に位置する La Jolla (ラ・ホヤ) というリゾート地に隣接しています。常夏の気候と言うと日本の酷暑を連想すると思いますが MacLeod 教授の話だと気温は高くても27℃程度だということですし、海風が涼しいので日射によって暑く感じるがあっても日陰は非常に涼しく、エアコンが必要ないもうなずけます。

今回の留学には文部省の学生国際交流派遣制度から奨学金が下りています。カリフォルニア大学は東工大との協定校で私は交換留学生 (foreign reciprocity student) という立場です。一般の大学院生と同等の権利がありま

すが1年間に限り授業料 (tuition fee; 年間約\$11,000)、教育費 (educational fee; 年間約\$1,000) 等が免除になり、支払うべき料金は大学院生が強制的に加入させられる健康保険 (GSHIP; graduate student health insurance plan) の年間約\$550です。しかし、1年限りの立場で、また学位を申請できません。州立大学なのでカリフォルニア州定住者 (納税者および子弟) は授業料免除です。

学科のオリエンテーションは9月20日、講義が始まるのは9月23日です。私が到着したのは定住先を決定する経過の事情から9月6日になりました。なにはともあれ、直前の9月17日まで入寮できないので、到着後しばらくは指導教官の MacLeod 教授 (私は Don と呼び、Ichiro と呼ばれている) のお宅で1才半の Jonathan と5才の Ian の子守をしながら過ごしました。MacLeod 教授宅には、ほぼ同時期に大学院の新入生の Matthew McMahon (マシュー・マクマホン; 以下マット) がやはり部屋探しのために居候していました。彼は Rochester 大学で David Williams と仕事をしていたとのことでした。

到着の次の日にさっそく MacLeod 教授につれられて学科へ顔を出し、研究室と建物の鍵を合計で7個受け取りました。博士課程の学生には office が割り当てられ、私の部屋は2m×4m程度の部屋です。これは、博士課程の学生には全員に TA (teaching assistant) が義務づけられるためです。完全に独立した小部屋で、ドアの窓は防犯上の考慮からマジックミラーになっています。防犯には異常に神経が払われており、学内のあちこちで“一人歩きしないこと”というポスターを見かけたり、地下にある実験室のドアには鍵穴のついたドアノブをすっぽり覆う鍵つきガード (clam shell と呼ばれている)

が被せられています。

3日目は写真入りIDカード(photo ID)を発行する事務所とe-mailのアカウントをもらいに計算機センターに行きました。UCSDでは学生の情報はすべて計算機でオンライン管理されており、photo ID事務所、計算機事務所、会計係など各事務所で必要な情報が整理されて端末に表示されるシステムがあります。ところが、私が各事務所を訪れたのが学科のオリエンテーション以前だったためか学科事務の登録手続きがまだ完了しておらず、photo ID事務所と計算機センターだけではなく、登録費用を納めに行っても、オンライン登録されていませんと断られてしまいました。UCSDでは図書館、計算機センター、学科のコピー機、スポーツ施設の利用、食堂など、新しいサービスを申し込む度にphoto IDを必要とします。そこで、MacLeod教授を通じて学科事務に手続きの繰り上げを頼んでもらい、オンライン登録が終了しました。実際は学科主任の秘書さんに電話をかけまくってもらったのですが、彼女が"Bureaucratic(官僚的ね)!"とつぶやいていたのが印象的でした。

次に問題になったのは社会保障番号(social security number)です。納税者に対して割り振られる番号で、税金が関与するサービスではこの番号の呈示を求められます。大学院生には講義の手伝いをするTAが義務づけられており、大学から支払われるTAの収入は図書、文具費などの必要経費を除いて課税対象額になるため、私の場合、まず一時的な番号が合格通知の中で割り当てられました。4日目にはpermanentな社会保障番号を取得する手続きを行ないました。

次に必要なのが銀行口座です。これがないとTAや奨学金の入金が得られないし、小切手帳を作れないので大きな額の買い物の時に現金を大量に持ち歩く羽目になります。アメリカではスーパーマーケットでの支払を初め、しばしば個人小切手(personal check)を使います。かといって、バス(約\$1.00)に乗るのに小切手を

使う人もいませんが、口座を開設するとカードが与えられ、現金はATM(automated teller machine;自動預払機)で出し入れできます。

またカリフォルニア州では、1箇月以上の滞在者で運転をする人は州の運転免許証を取ることが義務づけられます。私は日本の免許と国際免許を持っていますが筆記試験と15分程度の実技試験があって、それで終わりです。1日で終了してしまいました。交通法規のマニュアルも筆記試験も日本語版がありました(マニュアルはちょっと日本語が変だった)。マットはニューヨーク州の免許からの切り替えだけなので筆記試験だけでした。私はまだ車を買っていませんが、車の購入も興味深い話題なので別の機会に記しましょう。

それ以前に住居が確保できないと大問題です。家具付きの大学の寮は週14食の食費込みで年間約\$7,000です。UCSD近辺の下宿の相場は“海に近いほど高く、内陸ほど安い”と言われています。寝室1つ(1 bed room)もしくはワンルーム(studio)という物件で比較すると、海沿いは少し涼しく、La Jollaリゾートに近くなるので\$600~\$900/monthと高くなります。内陸は砂漠気候で\$300~\$700/monthと安くなります。

住居の情報を得るには学内の寮に応募するか、下宿斡旋事務所に行くか、掲示板のルームメイト募集の広告を参照するかいずれかになります。私は事前に日本から手紙を出して大学の国際学生寮(international house)に応募して当たっていたので、渡米前に部屋が確保できていました。しかし寝室が2人部屋になるかどうかは大学に着くまで教えてもらえないので、現地に着いてから下宿も少し物色するつもりでいたため、オリエンテーションの2週間前の9月6日に渡米し定住先が決まるまではMacLeod教授宅に居候していました。

以下はマットが話してくれた彼の友人のケースです。彼の友人が掲示板の“ルームメイト求む”の広告を見て連絡を取り、建物を見に行ったところ4つの寝室のうち空きが1つある状況

で、リビングと風呂は共有になっていました。広告を出した本人以外は不在でしたが、“全員男性”であるわりには部屋の状況が比較的良かったので即決したそうです。契約して引っ越したところ、なんと、訪問時に不在だった2人は広告をだした本人の“愛人”で、リビングは違い引きの場所になっていたそうです。彼の友人は即座に飛び出したものの、解約ができず家賃を払い続けているとか。マットはこの話以来、掲示板を信用しないのだそうです。

マットは事前の準備をしていませんでしたが、到着の10日後に用事でオレゴンへ行くまでに住居を決める必要がありました。まず大学の寮では、待ちリストには載せてもらえるものの一人用の物件が少なく、2年待ちとのこと。次の日、彼は朝8時に下宿斡旋事務所へ飛び込み、私が研究室に顔をだした時には電話番号がびっしり書かれたメモを片手に電話にかじり付いていました。彼が数件見て回って意外に満足な物件が少ないのに気づいた矢先に、MacLeod教授の貸してくれた'82年型VOLVOがオーバーヒートで動かなくなりました（その2日後に中古のDODGEのステーションワゴンを\$950で買ったMacLeod教授もすごい）。当面の足は中国人の大学院生の貸してくれる自転車だけとなりマットは、大学から近い物件に絞るとどんどん数が減る、とぼやいていました。私は彼が丸1日かけて探して数件しか満足な物件がない様子を見て、寮が当たっていなかったら大変なことだった、と密かに胸をなでおろしました。結局彼は、大学から3 mile ほどのお婆さんの住んでる一軒家の1部屋で、キッチン、ガレージ付きで\$350/monthという物件に決着しました。

私の場合、寮がきれいなうえ1人部屋が割り当てられたし、学外でそれ以上に満足な物件を探すのが大変なので、寮に落ち着きました。個人の電話は保証金\$35（市内通話）+\$75（長距離通話）を払えば電話番号がもらえて、市内通話はタダです。なぜタダなのかとマットに聞いてみたら、基本料金（\$9.50）は取ってるし、タダにしてどんどん電話を掛けるようにさせて、

タダでない長距離もどんどん掛けるようにさせる仕掛けではないか、と言っていました。私も電話を引き、大学の計算機に電話回線経由で毎日loginしています。私が住居を共有しているのは香港とオーストラリアから来ている学生ですが、寮での共同生活についてはもう少し時間が経ってから記すことにします。

栗木一郎（KURIKI, Ichiro）

Department of Psychology
University of California, San Diego
La Jolla, CA 92093, U. S. A.

日本の連絡先：

東京工業大学大学院総合理工学研究科
知能科学専攻内川研究室

E-mail: kuri@int.titech.ac.jp; Radio: JM1CPZ